

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401188		
法人名	医療法人康整会		
事業所名	グループホーム ツーハーツ		
所在地	福岡市早良区次郎丸5-18-28		
自己評価作成日	令和4年11月21日	評価結果確定日	令和5年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

地域に密着した母体の医療機関との連携を図り、各ユニットに看護師を配置し、日々の健康管理を行い、利用者家族にとって、安心できる場所であるよう心掛けている。(こもれび)
母体の黒田整形外科医院と連携を図り、日常の健康管理を行っている。他医療機関と連携し、緊急時の対応もしている。各ユニットに看護師を配置し、体調の変化を把握し、適切な処置や終末ケアの対応を行っている。おひとりおひとりに寄り添い、利用者、ご家族にとって安心出来る場所を提供出来る様努めている。(そよかぜ)
一人一人の個性を尊重し、寄り添うケアを目指している。日々の健康管理、終末ケアの対応を母体の医療機関との連携を図り、穏やかに過ごして頂けるようご家族にとって安心できる場所でありたいと心掛けている。(せせらぎ)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内外に母体となる医療機関や介護付有料老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、通所介護や通所リハビリテーション等の介護保険サービス等を複合的に提供している。福岡市地下鉄七隈線や福岡市都市高速道路5号線のインターが最寄りであり、交通の便が良く、近くには室見川も流れている環境に「グループホーム ツーハーツ」は建っている。医療機関が母体であり、在宅酸素療法や吸引が必要な利用者であっても、心身の状態像にはよるものの看取り介護を積極的に実施している。看取りに関する研修も積極的に実施されており、医療面での支援が必要な利用者でも積極的に対応している面は、非常に特色がある。そういった面からも、地域の医療や介護をトータル的に対応する事が出来る、地域には欠かせない事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果						
自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(こもれび) 名札に理念を記載したカードを入れて携行し、いつでも確認出来るようにしている。また、理念に基づいたケアを実践している。	(そよかぜ) 名札に理念を記載したカードを入れ携行。詰所の壁に貼り、いつでも確認出来るようにし、理念に基づいたケアを実践している。	(せせらぎ) 個々の名札に理念を記載したカードを携行して、いつでも確認出来るようにしている。理念に基づいたケアの実践を心掛けている。	職員全員の名札の裏面に法人理念を入れて、常に見れるように意識できるようにしている。法人設立より今の理念を継続している。職員全員に、どのような理念がいいかを聞き取って話し合いをしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為、地域の方へは文書等で活動などの情報を伝えている。	コロナの為、地域の方へは文書などで情報や活動等をお伝えしている。8月実習生の職場体験を実施し、交流を図る事が出来た。	コロナの為、恒例行事の開催や職場体験は出来ていなかった。実習生の受け入れは少しずつ開始している。	コロナ禍ではあるが、福祉系の専門学校や職業訓練校から職場体験を受け入れている。公民館や民生委員等に「ツーハーツだより」を配布して、事業所の取り組みやレクリエーションの状況を知っていただけるようにしている。町内会に加入しており、市政だよりが配布されている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為、地域運営推進会議は行えていないが、入居者の生活状況を文書で伝えている。	コロナの為、地域運営推進会議は出来ていないが、情報や活動など、文書でお伝えしている。	コロナの為、地域運営推進会議の開催はなかった。コロナ禍の中で、利用者の生活状況等のお知らせに加え、ご意見を頂く為のアンケートをご家族に郵送している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催は出来ていないが、入居者の生活状況を地域のかた、行政機関、ご家族の方へ文書でお知らせしている。	コロナの為、会議の開催は出来ていないが、活動等文書、写真等でお伝えしている。郵送時、アンケートを入れ、聞き取りも行っている。	コロナ禍の中、会議の開催は出来ていないが、通常参加して頂いた地域の方や行政機関、ご家族には状況や行事報告を写真を加えて郵送でお知らせしている。	コロナ禍であり会議を開催はしていないが、書面開催して会議録を作成し、全利用者家族、町内会長、民生委員、市役所、地域包括支援センター等に配布をしている。利用者家族にはアンケートを実施して、頂戴した意見を事業所として今後どのように取り組むかを示している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があるときは、担当者へ聞き取りをしている。	活動、行事等文書でお伝えしている。不明点があれば、担当の方へ相談、聞き取るようにしている。	コロナの為、密な連絡を取り合う事は出来ていないが、文書等にて活動をお伝えしている。	新型コロナウイルス感染予防の件や、新型コロナウイルス陽性者が発生した際は、市町村に報告をしている。現在、5名の生活保護受給者がいるため、必要に応じてケースワーカーと連携を図っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行う身体拘束廃止委員会や施設内研修を行い、こまめにヒヤリハットを書く事により、身体的拘束防止に繋げている。	施設内研修で身体拘束・虐待防止について学ぶ機会を持ち、拘束しないケアを実践している。部内会議にて意見交換を行っている。	施設内研修や毎月リモートで行う身体拘束廃止委員会にて意見交換を行っている。	現在、身体拘束をしている利用者はいない。利用者の半数程度はセンサーを利用しているが、使用については口頭で説明をしている。身体拘束廃止委員会は月1回開催しており会議録を記載している。身体拘束に関しての研修は全員出席できるように、複数回開催している。

自己・外部評価票(グループホームツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価			外部評価	
			実践状況			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修のほか、ユニット内でも毎月の事例検討を行い、防止策の意見交換を行う事で防止に努めている。	施設内研修で定期的に学ぶ機会を持つことが出来ている。部内会議で意見交換を行い、職員のストレス対応にも努めている。	施設内研修でのグループワークや検討会、防止策を考案するとともに、職員のストレスケアに努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	コロナの為、外部研修の参加なし。法令遵守会議で取り上げた議題をスタッフ間で共有する等で理解を深めている。	内部研修にて理解を深めている。現在1名後見人を利用し、医療、生活、金銭面等相談・報告を行っている。	内部研修やスタッフ間で、意見交換することで、理解を深めている。	年1回、成年後見制度や日常生活自立支援事業の研修を実施している。外部講師を招いて研修を実施している。成年後見制度を利用されている方が2名おり、弁護士や司法書士とやり取りをしている。物品購入や入退院の際等に連携をしている。	利用者家族や地域住民等から、成年後見制度や日常生活自立支援事業のことを聞かれた時に、説明できるパンフレットを準備してはどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際は、疑問点や不安要素を解決できるよう、文章の読み上げ、説明を行い理解納得をして頂いている。	契約の際、重要事項説明書・運営規程を読み上げ、疑問点はその場で解決し契約している。	重要事項説明書を読み上げ、説明後疑問点の解決と理解を得た後、契約して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話対応の際やリモート面会時、ご家族の意見・要望の聞き取りを行い、対応している。	月1回、ご家族への手紙を送っている。ご意見、ご要望はリモート面会時に承ったり、都度ご連絡を頂いている。2カ月に1回開催される地域運営推進会議でもご意見を頂いている。	リモート面会や電話連絡時、家族との会話の中で聞き取りを行い、要望があれば対応について検討している。	コロナ禍であり、面会が十分にできない中でも感染者が少ない時期は、直接会いたいとの家族意見があり、家族意見を反映させて、ビデオで面会出来るようにした時期がある。現在はリモート面会とガラス越し面会を実施して、家族の意見を少しでも取り入れようと努力している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホーム会議やユニットカンファレンスを月1回行い、疑問点や提案意見交換が出来る機会を設けている。	月1回、グループホーム会議やユニットカンファレンスで意見交換を行い、ツアーハーツ運営会議(法人会議)で発表できる機会がある。年に1~2回個人面談があり、意見する機会がある。	グループホーム会議やユニットカンファレンスの中で意見交換を行い、ツアーハーツ運営会議にて発表出来るようにしている。	ユニットごとの会議と3ユニット全体の会議を1か月に各1回ずつ開催し、職員に意見を出してもらうようにしている。職員からトイレに跳ね上げ式の手すりの方が介助がしやすい、利用者も持ちやすいとの意見が出て、設置したことがある。食事介助の利用者が多く、時間がかかるユニットであれば、職員の勤務時間を柔軟に変更して対応できる体制にする等、職員の意見を反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の勤務状況や資格取得、また、就業環境に対する要望の相談等、整備に努めている。	キャリアパスを導入、面談を行い、職員の意見要望等聴取。実績や勤務状況、資格取得など把握し、職場環境・条件の向上が図られている。	勤務条件や環境改善等、要望を聞き入れ安定した給与水準も確認されている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用に際し、年齢や性別による制限は設けていない。また、職員の協力体制をもち、経験や技術を生かし勤務出来ている。	採用に関して、年齢・性別等々の制限はない。現在1名(軽度)障がいのある方の雇用あり。業務内容・勤務時間等、障がいに合わせ働き方に配慮している。	年齢や性別等による制限はなく、資格を目指す職員に対して休みの調整を行う支援体制がある。	20歳代から80歳代までの幅広い年齢の職員が勤務している。音楽療法士の職員がいるため、週1回音楽レクリエーションを開催している。お菓子作りが得意な職員がおり、利用者と一緒に作る等、職員が生き生きと勤務出来る場面がある。年齢や性別に関係なく職員の採用に努めている。職員の状況に応じて、働きやすいように勤務時間を柔軟に調整している。	

自己・外部評価票(グループホームツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価			外部評価	
			実践状況			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修も行われており、指導もされている。	内部研修にてプライバシー保護や人権の尊重をテーマに意見交換を行い、人権に対し取り組んでいる。	入居者に対する人権を尊重する為、定期的な内部研修に参加して、日々入居者の人権が損なわれないよう指導している。	外部講師を招いて権利擁護や人権に関する研修を実施している。研修終了後には職員にアンケートを実施して、研修内容を振り返ったり、次からの利用者への接し方に繋げている。職員が外部の研修に参加をしたり、認知症介護実践者研修に参加をしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては、業務扱いで参加してもらい、受講料、交通費は法人が負担している。	内部研修で実践トレーニングの機会がある。コロナ前は外部研修への参加の補助もある。	月に一度内部研修があり、外部研修参加補助もある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に各自、質の向上の為、ネットワーク作りに努めている。	他の同業者とのネットワーク作りを心掛け、意見交換の場があれば参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	コロナ禍で実施していない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとって不安な気持ちに寄り添いながら安心して生活できるよう努めている。	入居前にご本人の情報をスタッフ間で共有。サービス導入後も本人の要望に耳を傾けながら、安心した生活が出来るよう努めている。	入居前にご本人の情報をスタッフ間で共有し、ご本人が望まれる生活に近づけるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前より不安な事や要望等をしっかり受け入れ、関係づくりに努めている。	入居前、契約時にご家族のご意向や思いを聞き取り、スタッフ間で情報共有、気付きがあれば家族と連絡を取り、関係づくりに努めている。	事前面談で情報収集し、スタッフ間で情報共有し、こまめにご家族様と連絡をとり、信頼関係構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より情報収集を行い本人が安心して生活できるよう努めている。	入居前の情報収集や、事前面談で必要とされる支援を見極め、他のサービス利用も含め柔軟な対応が出来るように努めている。	入居前の情報から、ご家族からの要望を取り入れ、必要とされる支援を見極め、計画書に反映し、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の間人として向き合い、しっかりこにゆにケーションを取る事により、関係を築けるよう努めている。	ご本人が出来ることはお手伝いをして頂いている。コミュニケーションを多くとり、生活の知恵や気持ちの共有等信頼関係の構築に努めている。	日々スタッフが声掛けし、コミュニケーションを取り、ご本人が出来る事を一緒に行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への手紙や面会・受診と限られた場面の中で、情報を共有しながら関係づくりに努めている。	ご本人の写真を添えて、毎月家族へ手紙を送り近況報告を行っている。電話連絡にてご意見ご要望を聞き取り、ケアに反映するよう努めている。	家族への手紙、電話連絡にて近況報告、要望を確認し、ご家族と情報を共有している。		

自己・外部評価票(グループホームツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価			外部評価	
			実践状況			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話・受診等限られた時間で支援出来ている。	コロナの影響で、リモートで面会を実施している。馴染みの人や場所等は会話の中で引き出したり、居室にご家族の写真を飾り、いつでも見て頂けるようにしている。	コロナ禍により、リモート面会でご家族との対話時スタッフが付き添い、支援している。	コロナ禍ではあるが、感染者が少ない時には直接面会が出来る環境を整備したり、リモート面会やガラス越し面会をする機会を持てるようにして、少しでも利用者と家族の関わりが希薄にならないようにしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での関わりは難しく、スタッフが仲介に入り支援している。	間隔を取り、フロアで過ごす時間を確保している。出来る限り皆さんで話せる話題を共有し、発言しやすい工夫をしている。	同じフロアにて全員が顔を合わせて一体感のあるレクリエーション等の時間を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談することが出来る事を伝え、支援出来るように努めている。	退居後も相談があれば対応し、関係性を大切に継続できるように支援に努めている。	ご家族から相談があれば、応じられるよう関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での本人の声や行動などから、思いをくみ取って対応できるように努めている。	日々のコミュニケーションを通じて本人の思いを汲み取り、希望に沿った対応が出来るよう努めている。	日々の会話の中で、ご本人の思いを把握し、希望に添えるよう努めている。	本人の何気ない発言や表情を見ていながら本人の意向や希望をくみ取るように努力している。本人の言動や表情でいつもと違うことがあれば、感じ取るようにしている。家族に意向を聞いて、何か食べたい物したいこと等がないかお聞きするようにしている。利用者が直接、意向を言われる時には、極力対応できるようにしている。外気浴が好きな利用者は外気浴が出来るようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人との話の中で生活歴を把握し尊重しながら住みやすい環境づくりに努めている。	入居前の情報提供や事前面談で、生活歴等を把握し、入居後も生活環境が急変しないよう支援している。	入居前の情報や、会話の中でのごだわりを把握し、生活環境が急変しないよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合ったライフスタイル、声掛けの方法、個々の能力を把握したうえで支援に努めている。	日常生活の中で本人の心身状態を観察し、ご自分で出来る事は声掛け、見守りしながらして頂いている。またスタッフ間で情報共有を行っている。	毎日の観察ケアの中で心身状態を観察し、残存能力を支援し、スタッフ間で情報共有を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング評価出来ている。各スタッフが観察を行い、意見を出し合っている。家族、本人の思いを反映し計画書の作成を行っている。	月1回、ユニット会議でスタッフが意見を出し合い医師・理学療法士等からの助言を受け、本人・家族の要望を取り入れ計画書を作成している。	モニタリングシートを活用し、課題とケアを考え、月1回のカンファレンスにてスタッフ間で意見交換し、ご本人や家族の要望を取り入れている。	3ユニットあり、ユニットによってはアセスメントを居室担当が実施しているユニットもあるが、他のサービス担当者会議録の作成やケアプランの作成、モニタリングの作成は計画作成担当者が実施している。ケアプラン更新時は家族に電話連絡をして意向を確認して、ケアプラン作成に生かしている。ユニット会議の中でケアプランについて職員から意見を出し合っケアプラン作成にいかしている。	アセスメント用紙には、利用者の具体的な状態を記載して、介護サービスを提供する根拠を明確にしてはどうだろうか。

自己・外部評価票(グループホームツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価			外部評価	
			実践状況			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は介護日誌と申し送りにて行い、定期的カンファレンスで討議し、計画に取り込んでいる。	介護記録や申し送りにて情報共有を行い、毎月のカンファレンスで見直し、ケアに反映させている。介護ソフトを導入しパソコンで記録している。	日々の情報は申し送りノートや介護記録にて行い、毎月のカンファレンスにて見直し、計画に取り入れている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や入居者の要望があれば取り入れた支援を行っている。また、母体の病院、専門医との連携他、訪問歯科・訪問リハビリ等個別対応も行っている。	ご本人やご家族の要望や必要に応じて、訪問歯科や訪問リハビリ、通所リハビリの個別対応を行っている。他、必要があれば専門医の受診の支援を行っている。	本人やご家族からの要望があれば、リハビリや訪問歯科、訪問鍼灸等の個別対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナの為、ボランティア活動が行われていない。	現在はコロナの為地域ボランティアの受け入れは行っていない。	現在、コロナ禍の為、外部の方との交流を受け入れていない。一日も早く再開できるよう支援したい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は当施設の送迎車を使用。必要時本人、家族のかかりつけ医との連携を取り、連絡調整して受診を行う体制を整えている。	本人・家族の希望があれば、かかりつけ医の受診を継続し、家族での対応が困難な時は、施設で対応し、送迎車を使用、受診体制を整えている。	受診時は母体である病院とご家族希望のかかりつけ医療機関での受診を共有している。	入居契約時に母体の医療機関に受診して頂き、日常の健康管理を実施している。また、医療機関とは緊急時は24時間連絡できる体制がある。他科受診は家族受診をお願いしているが、家族の対応が難しい場合は、事業所が対応している。実情としては通院介助のみは事業所がしていることが多い。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時、又急変時には看護師が各ユニットの看護師が対応して常時連携を取れるような体制を整えている。	体調不良時や急変時は各ユニットに看護師が配置されており、オンコール体制で24時間連絡がとれるようになっている。	毎日の健康状態を把握し、急変時は各ユニットの看護師に報告し対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、看護師、または管理者が医師との連携を取りながら、医療機関との情報交換を行っている。入居者が安心して治療出来る様支援している。	入退院時は看護師又は管理者が、医師との連携をとりながら、医療機関との情報交換を行っている。	入退院時は管理者・医師・ケアマネの方との情報交換を行い、信頼関係に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での終末期を迎えたい希望があれば、説明を行う。医師、家族、管理者、職員間での話し合いの場を設ける等支援を行っている。	施設で終末期を迎えたいとの希望があれば、説明を行い、支援をしている。医療機関への連携を図り、医師、ご家族、施設職員との話し合いを行っている。	終末期を迎えたいと家族から希望があれば、医療機関と施設との連携を取り、最後まで穏やかに過ごされるよう支援している。	終末期に差し掛かった時点で、医師から家族に十分説明をしてもらい、家族が十分に納得されたうえで対応をしている。看取り対応をしている利用者が現在でも6名いる。夜勤帯にも看護師に連絡がつく体制であり、年1回は看取りケアについての心構えや対応の研修を定期的に行っている。看取りケアを実際に実施する際は、事前に「看取り介護に関する説明および同意書」を説明し、家族の署名を頂戴している。	

自己・外部評価票(グループホームツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価			外部評価	
			実践状況			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて防災センターの講師より緊急時の対応や救急蘇生の講習訓練を行っている。	施設内研修にて、防災センターの講師より緊急時の対応等講習・訓練を受けている。	内部研修や防災センターの講師より、緊急時の研修を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。わかりやすい位置に防災マニュアルを置き、消火活動や避難方法を学んでいる。	防災訓練を年2回実施している。分かり易いところに防災マニュアルや消防計画書を置いている。	毎年2回防災訓練を実施。消火活動や避難方法を学んでいる。	昼間想定訓練だけではなく夜間想定訓練も実施している。水と米を備蓄している。避難経路を各ユニットに貼って分かりやすく掲示したり、消火器や散水栓の場所や位置も職員が理解している。消防署の立会いのもと、消火器の訓練も実施している。	火災以外の浸水や地震等の災害に対する訓練も実施してはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持ち、声掛けや対応、傾聴を行っている。入浴・排泄時はプライバシーに配慮し実施している。	入浴・排泄時にはプライバシーに配慮し、実施している。内部研修で人権やプライバシー保護に関する意見交換を行っている。	排泄、入浴時はプライバシーの確保に気を付けてケアを行っている。	ポータブルトイレを使用される際やトイレ行きの際は必ず扉を閉めるようにしている。利用者に対しては、他の利用者の排泄状況等が目につかないように気を付けている。プライバシーに関する研修も実施している。女性の利用者で入浴は女性職員が良いという希望がある方には、希望に添うようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけをしている	日々、表情や会話、行動で本人の意思を尊重し、自己決定できるように環境づくりを支援している。	笑顔での声掛けを入居者に寄り添うよう心掛けて入居者が安心して思いや希望を表出できる環境づくりをしている。	これからする事、事前に声掛け、思いを聞き、表情に気が付け観察し、ご本人の状態に合わせたケアを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、その日の希望に沿って、余暇時間等を過ごせるようにしている。ケアの拒否があれば、対応を変え、柔軟に接するようにしている。	個々のペースに合わせたケアを心掛けている。拒否があれば対応を変え、柔軟に接するようにしている。	お一人、お一人に合わせている。レクリエーション参加も強制せず、歌、体操等自由参加で行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は本人の要望を取り入れながら、着ていただき、季節ごとに必要な物は、ご家族に届けてもらっている。髭剃りは電気シェーバーを利用して、声掛け、一部介助にて毎日行っている。	ご家族から利用者が好む洋服等を季節の変わり目に持参して頂いている。理美容も個々のペースに合わせて実施している。	季節ごとに調整、本人の要望を取り入れ、着用している。2か月に1回は訪問理美容を利用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ現状の中、テーブル席の配置を考慮し、感染症対策の中、音楽を流し、落ち着いた雰囲気の中で食事をしている。また、介助が必要な方は介助後同席にて食事を頂いている。茶碗拭きなどを手伝って頂いている。	音楽などを流し、落ち着いた環境でゆっくり召し上がって頂いている。お皿拭きを手伝って頂き、おしゃべりしながら楽しく過ごして頂いている。	食事の時は、音楽を流し、ゆっくり落ち着いた環境で食事が出来るように環境調整に気を付けている。	食事は委託業者が入っている。グループホーム職員がお菓子を作ったり、手作りの食事を作ったり出前を取るようなことはないが、厨房が月に1回は行事食を作って利用者に提供している。レクリエーションの一環で、利用者の目の前で握りずしを作って利用者に提供する等している。利用者がコップや湯呑を洗って拭いたり、テーブル拭きを手伝ったりして下さる利用者もいる。利用者が何か食べたい物があれば買ってきて提供することもある。	

自己・外部評価票(グループホームツーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価			外部評価	
			実践状況			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	食事状態の観察を行い、摂 取状況に応じて形態を変え て観察を行っている。水分 摂取状況は必ず配茶した分 は飲めるように声掛けし、ス タッフの情報交換を行ってい る。	個々に合わせた食事形態に て提供している。食事摂取表 で記録しスタッフ間で情報共 有している。言語聴覚士によ る評価や助言に基づき、入居 者が美味しく召し上がれる ように介助している。	個々の状態を把握し、普段の 食事、水分量の違いを記録し、 その方に合った食事形態で提 供している。スタッフで情報共 有もやっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	口臭が強い場合は訪問歯 科と連携を取り、ケアに取り 組んでいる。自力で口腔ケ ア困難な方は、一人一人丁寧 にケアを行っている。義歯 の洗浄も定期的に行ってい る。	毎食後、スタッフが見守りや 介助にて口腔ケアを行ってい る。夕食後は毎日義歯を洗浄 剤にて洗っている。訪問歯科 を利用できる。	毎食後、口腔ケアを行ってい る。歯磨き、困難な方はスタッ フがブラッシングを実施し、ご 自分で出来る方は、声掛けに て促している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立にむけた支援を行っている	医師の指示のもと、排便コン トロールを排泄表をもとに 行っている。日中はトイレで の排泄を行っている。	排泄チェック表を活用し、座位 の保てる方は、声掛けし、トイ レ誘導、介助や見守りを行っ ている。立ち上がりなど出来 る事は自立を促している。	個々の排泄チェック表があり、 その方に合った排泄介助をス タッフ間で共有し行っている。 立位、歩行でき、座位が保てる 方にはトイレでの排泄を促し実 施している。	排泄チェック表を作成して排尿や排便のタイミ ングを理解することで、トイレで少しずつ排泄が 出来るようになった改善事例がある。布パンツ で、ほぼ自立でトイレに行かれる利用者もい る。昼夜ポータブルトイレを使用している利用者 もあり、排泄の自立支援に配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状態の観察を行 い、1.5L/日の水分補給を出 来る様にしている。排便困 難の時、医師の指示のもと 緩下剤の服用、又処置等を行 っている。	定期的な水分補給と出来る運 動を予防としている。排泄 チェック表を用い、便秘の方 には医師により緩下剤が処方 されている。ご家族と相談し、 ヤクルト等も飲用している。	排泄チェック表を確認し、便秘 が3日続いた場合、その方 の状態を看護師に相談し、個々 に応じた支援を心掛けている。 水分チェックも行い、便秘の方 には医師により緩下剤処方あり。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせ て入浴を楽しめるように、職員の都合で 曜日や時間帯を決めてしまわずに、 個々にそった支援をしている	入浴拒否がある時は、本人 にあわせて対応、希望に沿 うよう時間の考慮をしてい る。	個々の体調やタイミングを合 わせて声掛けし、入浴して頂 いている。拒否されることなく 入浴出来ている。	入浴の際、声掛けし拒否が あった場合は、時間を置き対 応。更に拒否の場合は、無理 せず翌日に行くなど、個々のタ イミングに合わせて対応してい る。	週2回入浴介助をしており、入浴を楽しんでもら うために入浴剤を使用している。好きな入浴剤 を利用者に選んで頂き使用している。利用者の 好みの化粧水や乳液等を使用している利用者 もいる。入浴を嫌がられた利用者には時間帯を ずらして対応をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状 況に応じて、休息したり、安心して気持 ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個々のスタイルに 合わせた個別対応をしている。 入床されていない場合は、談話 をして過ごしてもらい、支援を 行っている。	入眠時間は個別対応している。 日中横になって頂く時間とって 入床されない方はフロアに て思い思いの時間を過ごされて いる。	入眠時間は個々の生活スタイルに 合わせた対応。日中、入床されて いない方は、自由に過ごされて いる。スタッフと談話したり、楽しく過 ごされる様支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認 に努めている	処方内容は常時確認出来るよ うにカルテファイルに保管して いる。処方内容、副作用等も情 報も看護師からスタッフに伝え ている。	薬剤情報はいつでもすぐ見える 所に保管している。服薬時は本 人の飲み込みまで確認してい る。看護師と連携し状況の変化 に対応している。	薬剤情報はスタッフ共有し、すぐ に確認出来る様保管している。服薬 時本人の飲み込みの確認を行う 等、飲み忘れの無いようにしてい る。看護師とも連携し、症状の変 化にも対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、嗜好品、楽しみごと、気分転 換等の支援をしている	一人ひとり出来る事、嗜好に合 わせ、洗濯物たたみ、食器拭き 等のお手伝いをして頂いてい る。職員との談話も含め、楽し み事や気分転換等の支援をし ている。	一人一人出来ることに対してス タッフより感謝を伝え、自信を 持って頂き、ボール遊びや歌、ス タッフとの談話も含め気分転換に なれるよう支援を行っている。	個々の出来る事のお手伝いに対 し、お礼、感謝の言葉を伝え、喜 び、やりがい、自信を持って頂いたり、 レクリエーション・スタッフの会 議等楽しみ事、気分転換等の支援 を行っている。		

自己・外部評価票(グループホームツアーハーツ)

自己	外部	項目	自己評価			外部評価	
			実践状況			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は出来ないが、希望があれば施設の周囲で外気浴を行っている。	コロナ禍で外出は控えているが、暑さ寒さを肌で感じて頂けるよう施設周囲の散歩を行っている。	外出はコロナの為、思うように出来ていないが、施設の周囲で散歩にて外気浴等で気分転換していただいている。施設内の他の部屋を訪問して親交を図っている。	基本的にはコロナ禍で外出は控えているが、日常的に事業所周辺の散歩をしている。花と果物の苗の水やりを手伝って頂いたり、水やりが難しい利用者は、水やりをしている所を見学している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う意思決定が出来ない方がいない。必要な物、希望の物があれば家族に差し入れて頂いている。	本人お希望があれば、ご家族の了解を得てスタッフが買物を行っている。	お金を使う意思決定が出来ない方はいない。必要な物、希望の物は本人や家族の了解を得て、職員が買いに行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と何時でも電話できるように、また、届いた手紙があれば一緒に読んだりしている。リモート面会も行っている。	本人、家族の希望があれば、オンライン面会を行っている。手紙や荷物が届いた際は、一緒に読んだり、写真を撮ったりしている。	本人や家族の希望があれば、リモート面会を行っている。自分の意思で手紙を書けないため、スタッフが近況を報告している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や温度、湿度に充分配慮し、管理している。フロア内壁には笑顔の写真や暖かみのあるフェルト布で季節感を出せるように表現している。	窓を開け風を通して換気や湿度に充分配慮し、清潔を保ち、快適な環境づくりに努めている。季節を感じる花や壁飾りを作成し、楽しんで頂いている。	エアコンで空調を管理し、湿度や換気に心くばりしている。空気清浄機を使用している。窓を開放し、換気している。気分が穏やかになれるように音楽を流したり、テレビで好みの番組を映したりして楽しく軽快に過ごせるようにしている。	共有空間にはテーブル、椅子、ソファ、テレビ等があり、ソファは広々と使用することが出来てリラックス出来やすい環境である。ユニットによってはベランダがある。その時その時の季節にあった飾りつけをして、利用者の方々に少しでも季節感を味わってもらったり、喜んでもらえるように工夫している。常時換気をしており、加湿器もあるため湿度に配慮している様子が伺える。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは気の合う方同士が近くになれる座席に配置している。	フロアでは気の合いそうな方が近くになれるよう座席を配置している。居室の行き来はいつでも出来るようにしている。	フロアは互いに親しく和やかに本人同士が過ごせるようにテーブルの座席配置を考えている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やご家族の写真、思い出の品を飾って安心して過ごせる空間を作っている。居室の整理はご本人様の意見を伺って、行っている。	馴染みの家具や着衣・ご家族の写真など、入居時に持参して頂き、安心して過ごせる空間をつくっている。	入居時に持参した服や日用品類、ご家族の写真などを飾って慣れ親しんだものに囲まれ、心安らかに過ごせるように環境作りに努めている。季節ごとの衣類の交換は、家族が対応し、居室は整理整頓されている。	利用者によっては、家族写真や利用者が作成した作品を飾ったり、本人の使い慣れたタンスやテレビ等、持ち込みたい物を持ち込んでいる。中には仏壇を持ち込んでいる利用者もおり、毎日仏壇の前で手をあわせる等、本人の気持ちも大切に出来るようにしている。事業所としては、エアコン、介護用ベッド、電灯を常備している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には、個々の名札があり、トイレも分かり易い場所にあるので、自由に一人で行き来することが出来る。トイレ、浴室も見やすく表示している。	居室入口、トイレ、浴室等表示を付け、分かり易いようにしている。手すりを伝って自部のペースで歩行、立位等出来るように支援している。	ホールを中心に各居室入口、トイレ、浴室等に表示を付け、分かり易いようにしている。手すりを伝って歩いて行けるように支援している。		